

平成 30 年度第 1 回羽幌町文化財調査委員会議（議事録）

1. 開催日時 平成 30 年 7 月 19 日（木曜日）
午後 6 時～午後 7 時 10 分
2. 開催場所 羽幌町中央公民館 3 階 会議室
3. 出席者委員及び欠席委員の氏名
 - (1) 出席委員 中山 康彦、齊藤 弘勝、渡辺 忠、工藤 俊也、佐々木隆浩、
菊池 瞳、九谷 一司、濱野 孝
 - (2) 欠席委員 飯澤 幸子
4. 説明のために出席した教育委員会職員の氏名
教育長 山口 芳徳
社会教育課長 渡辺 博樹
社会教育課社会教育係長 高橋 司
社会教育課社会教育係主任 茶谷 久恵
5. 会議の公開、非公開、または一部非公開の別
公開
6. 会議を非公開、または一部非公開にした場合はその理由
7. 議題および議事の要旨
 - (1) 委嘱状の交付
教育長から委嘱状を交付
 - (2) 挨拶
教育長 山口 芳徳より挨拶
 - (3) 出席者全員自己紹介
 - (4) 委員長の互選
委員長 中山 康彦
 - (5) 報告事項 以下ア～イについて、事務局から一括説明

ア. 平成 29 年度文化財関係施設利用状況について

施設名	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
郷土資料館	970	1,035	928	741	955	741
焼尻郷土館	1,458	1,456	1,289	1,510	1,480	1,763

質疑、意見等

質問：郷土芸能の保存・育成の部分で、補助金の申請団体は昨年度は10団体の実績があり、今年度は現在8団体の申請が来ているということだが今後申請が来る団体はあるのか。

回答：補助対象団体の中には年間で活動期間が限られる団体の他に通年で活動する団体もあるため、申請時期が異なる。本補助事業は平成27年度から5ヵ年計画で町内の郷土芸能団体の備品等の整備や各種事業に参加する経費等を補助するもので、今年度で4年目を迎え、対象団体は町内に11団体ある。昨年度は1団体の申請がなく、10件の交付実績があったが、今年度は補助対象団体の事前調査で全団体が申請予定との回答を得ている。

質問：昨年度は焼尻郷土館の利用者が多かったがどうしてか。

回答：昨年度は旅行会社のツアー客が例年より増えたことや天候などが影響していたのではないかと考えられる。

質問：羽幌町郷土資料館の利用者の減はどうしてか。

回答：昨年度は例年多くの利用者が見込める開館時期5月の天候不良が要因と考えられる。

質問：羽幌町にとって化石は大切な観光資源だが、最近、上羽幌に町外者の立ち入っている姿が多く見られている。昔は古生物研究会があり、盗掘に対するパトロールをしていたが、今はそのようなことは行わないのか。

回答：今はそのような団体がいないため特に対応していない。

質問：文化財調査委員を長年務めていた故清水氏の保有するアンモナイトの化石を沼田町博物館が受け継いで博物館内に清水コーナーを設けて展示している。清水氏宅の車庫にはまだ200個程度化石が保管されており、町で化石会を作るなどしてそれを保管することはできないのか。

回答：化石に興味のある人材がいないのが現状で団体をつくるということは難しいと考えられる。

質問：町内には個人で化石を所有している人が割と多い。羽幌産の化石を町外に流出しないよう郷土資料館などに収蔵することはできないのか。個人で所有する化石はこのままだと今後捨てられる可能性がある。

回答：郷土資料館には多くの化石が展示されており、展示しているものは種類などを調べ展示しているが、展示するためには化石の状態によるが、クリーニングや種類等の同定が必要となり、調査費用等が発生する。

意見：化石は羽幌町のシンボルでもある。化石の分野に詳しいモリ先生に相談するなどして今後この課題をテーマに時間をかけてよりよい方向に考えてほしい。また、化石を所有している人にはできるだけ化石を捨てないよう声を掛けるようお願いしたい。

質問：旧太陽小学校のドーム型体育館について、歴史的建造物だが今年3月

に屋根が崩壊してしまい、現在安全対策のため周囲300メートル手前にバリケードやロープが張られているがそれはいつまで続くのか。炭鉱跡地の案内する際、その付近の橋の上からとても貴重な石炭の断層が見られる場所があってロープを跨いで入らないと行くことが出来ない。ロープやバリケードは簡単に避けて中に入れる状態だが安全管理上どうなのか。

回答：旧太陽小学校のドーム型体育館の管理は現在商工観光課が管理している。このような意見があったことを担当課主管に報告する。

意見：文化財調査委員で動ける人は情報を集めてほしい。